

都道府県別賞一等

祖父と祖母からの教え

千葉県 芝浦工業大学柏中学校 一学年

中村 友奏

満開だった桜がはらはらと花びらを散らし、歩道がピンクに色づく頃、大好きだった祖父は亡くなった。桜が大好きだった祖父はこの景色を見たかったらうと想像し、私の目には涙が溢れた。それは突然のことだった。祖父はくも膜下出血が原因で、急に天国へ旅立っていったのだ。

もともと祖父は二十年程前からガンの治療をしていたそうだ。治療中もいつも元気で、笑顔で家族みんなを引っ張っていく、自慢の祖父だった。倒れる前日も、検査のために入院してくるといった感じで「じゃあ行ってくるね」と玄関で話したのが最後だったと祖母が話してくれた。その翌日、祖父がくも膜下出血で倒れたのだ。そして八日後、桜と共に祖父は空へ旅立ってしまった。

祖父を突然失い、残された家族が悲しんでいる様子を目の当たりにした。私も心が痛んだ。何をしていたのかわからず、どんな言葉を祖母や両親にかけていいのかもわからなかった。ただ、何もできずにバタバタと時間だけが過ぎていった。しばらくして、家族の様子も落ち着いてきた頃、祖母が大事なことからと生命保険について話をしてくれた。

祖父の治療中は医療保険がとて役に立った。ガンの治療には非常にお金がかかるが、入院のたびに治療費を助けてもらった。そのおかげで祖父はしつかりガンの治療に向き合うことができ、定年まで仕事を続けることもできた。本当に入っておいて良かったと思うと話してくれた。また、生命保険は長期間療養していたため、高額のものには入ることができなかったが、遺族の手続きの諸費用に役立てて大変助かったと教えてくれた。保険会社の方はガンの治療中も祖父が亡くなった後もいつも家族に寄りそってくれ、家族の代わり色々取り計らってくれた。また、何事もすぐに対応してくれたことに家族全員、感謝した。保険会社の方には長年お世話になっていたため、祖父の病状のことをずっと気にかけてくれたり、知ろうとしたりしてくれた。また、祖父のことだけでなく今も残された家族のことも心配してくれているという。

生命保険にはネットで簡単に契約できるものがあり、顔を合わせなくても契約ができるそうだ。家で簡単にできてしまうのは非常に楽だけれど、顔を知れた間柄のほうがいざというときに安心感がある。保険には色々な種類があり、自分にとって良い面と必要でない面もある。そういったこともよく考えて大人になったときに自分の状況や契約の内容についてよく知り、どれが自分に必要

第61回中学生作文コンクール

かを見極めて納得できる保険を選ぶことがとても大切であることを教えてくれた。

私はまだ十三歳だが、あと五年で大人と同じ年齢となる。生命保険は十八歳から自分の意志で入れるようだ。大人になるとは、自分の人生を自分で決断し、その責任は自分だということを小学校の先生に言われた。私は正しい判断ができる大人になりたいと思う。だから、それまでに生命保険についてもう少し勉強しておこうと思う。